

まじむんの **どうーちゅいむにー** 第6回

ハイサイ&ハイタイ、グスーヨーガンジューヤミセーミ（こんにちは、みなさまお元気ですか）？
 今月は、千原池のほとりにある、風樹館を紹介しますよ～

琉球大学資料館・風樹館の正面玄関写真



金城キクと風樹館

風樹館は、沖縄の農林業の発展に寄与することを目指し、動植物標本や農林業標本・資料を展示・学習する場として1967年首里キャンパスで開館しました。国内大学の「ユニバーシティ・ミュージアム」が少なかった当時、開館は画期的な出来事でした。同館オープンには、金城キクという激動の人生を生きる1人の女性のひたむきな願い、第8代琉球大学学長・高良鉄夫の努力が込められています（敬称は略します）。

金城キク（1909-1966）は、琉球植物の研究者で建材店を開いた父、三郎の急逝により実践女子大学を中退、帰郷します。那覇市で家業を継ぎ才覚を表しますが、戦争により一時廃業。

しかし昭和25（1950）年再び建材商「金城キク商会」を設立、昭和36（1961）年には「金城報恩会」を発足させ、事業とともに社会福祉活動を活発に行いました。



（左：金城キク・右：高良鉄夫）

高良鉄夫は農学部の研究費などの関係で文教局社会教育課と調整中でしたが、同課の嶺井百合子が金城キクを高良に紹介します。金城は亡き父の記念事業を計画中で、高良と面識を得、本学農学部への農業博物館寄贈を決定。「風樹館」は金城の命名によるもので、「風樹の嘆」（『韓詩外伝』九）に由来します。金城キクの名は、風樹館の名とともに深く刻まれることになりました。

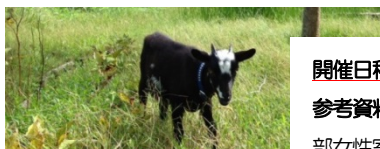
風樹館の特色——風樹館から「琉球大学資料館・風樹館」へ

1983年、琉球大学の千原キャンパス移転に伴い、風樹館も「琉球大学資料館・風樹館」として新装開館。現在の風樹館は1985年9月オープン、所蔵資料は民俗：約150点、美術工芸：約900点、考古：約2100点、動物：約35000点、地学：約2000点、文献：約1000点の約41000点を数えます。自然系のタイプ標本が300点余、これらの管理・寄託ができる県内で数少ない博物館施設の一つです。設計は沖縄らしい建築にこだわり、海洋博会場「沖縄館」を手がけた金城信吉（1934-1984）の作品として有名です。

これからの風樹館

今後、風樹館は様々な教育活動を地域に還元し、社会へ貢献できる総合大学博物館として活動を展開していきます。さっそく「琉球大学附属図書館・資料館企画展」を久米島博物館で開催しますよ※。まじむんの「どうーちゅいむにー」を読んだあなた、見学お待ちしております。風樹館の活動を応援してくださいね！（NK生）

鉄格子を開けると…
 ヤギの親子に会える！



みんな遊びにきてね～♪

開催日程 平成26（2014）年11月2日（日）～11月16日（日）

参考資料：外間米子監修『時代を彩った女たち 近代沖縄女性史』（ニライ社/1996）、那覇市総務部女性室編『なは・女のあしあと 那覇女性史（戦後編）』（琉球新報社事業局出版部/2001）、上原信雄編『阿壇の園の秘話 平和への証言』（上原信雄/1983）